

地 理 歴 史

1 学習指導要領改訂の趣旨

平成28年12月の中央教育審議会答申を踏まえ、改善の方向性が以下のとおり示された。

- 基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得
- 「社会的な見方・考え方」を働かせた「思考力、判断力、表現力等」の育成
- 主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成

2 改訂の内容

(1) 教科の目標の改善

【地理歴史科の目標】		
社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

地理歴史科の目標については、従前からの目標の趣旨を継承しつつ、「社会的な見方・考え方を働かせ」たり、「概念などを活用して多面的・多角的に考察したり」するなどの新たに目標上に明記された規定を踏まえるとともに、これまで以上に、小・中学校社会科との接続や高等学校公民科との関連を踏まえ、その改善を図っている。

(2) 科目の改善

ア 科目構成

改 訂		現 行	
科 目 名	標 準 単 位 数	科 目 名	標 準 単 位 数
地 理 総 合	2	世 界 史 A	2
地 理 探 究	3	世 界 史 B	4
歴 史 総 合	2	日 本 史 A	2
日 本 史 探 究	3	日 本 史 B	4
世 界 史 探 究	3	地 理 A	2
		地 理 B	4

- ・ 必履修科目は「地理総合」と「歴史総合」。
- ・ 選択履修科目は「地理探究」及び「日本史探究」、「世界史探究」。
- ・ 「地理総合」の履修後に「地理探究」、「歴史総合」を履修後に「日本史探究」、「世界史探究」を履修させる。

イ 各科目

<地理総合>

【地理総合の目標】		
<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<p>地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p>	<p>地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p>	<p>地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。</p>

この科目は、持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察する科目として、新たに設置された。

(ア) 内容の構成

<p>A 地図や地理情報システムで捉える現代世界 (1) 地図や地理情報システムと現代世界</p> <p>B 国際理解と国際協力 (1) 生活文化の多様性と国際理解 (2) 地球的課題と国際協力</p>	<p>⋮</p>	<p>C 持続可能な地域づくりと私たち (1) 自然環境と防災 (2) 生活圏の調査と地域の展望</p>
--	----------	--

- ・ 内容Aは、「地理総合」の学習の導入として中学校までの学習成果を踏まえ、現代世界の地域構成を主な学習対象とし、その結び付きを地図やGISを用いて捉える学習などを通して、汎用的な地理的技能を習得することを主なねらいとしている。
- ・ 内容Bは、内容Aの学習成果を踏まえ、世界の特色ある生活文化と地球的課題を主な学習対象とし、特色ある生活文化と地理的環境との関わりや地球的課題の解決の方向性を捉える学習などを通して、国際理解や国際協力の重要性を認識することを主なねらいとしている。
- ・ 内容Cは、内容A及び内容Bの学習成果を踏まえ、国内外の防災や生活圏の地理的な課題を主な学習対象とし、地域性を踏まえた課題解決に向けた取組の在り方を構想する学習などを通して、持続可能な地域づくりを展望することを主なねらいとしている。

(イ) 内容の取扱い

- ・ 各大項目を構成する中項目の配列については、それぞれの中項目のねらいや内容、

学習の流れを考慮して位置付けを工夫していることから、支障のない限りこの順序に基づいて指導計画を作成し指導すること。

- ・地図の読図や作図、衛星画像や空中写真、景観写真の読み取りなど地理的スキルを身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導すること。
- ・地図の読図や作図などを主とした作業的で具体的な体験を伴う学習を取り入れるとともに、各項目を関連付けて地理的スキルが身に付くよう工夫すること。
- ・生徒や学校などの実態を踏まえて適切な「主題」とそれに応じた「問い」を立て、それらを中心に構成した学習活動を実施すること。

＜地理探究＞

【地理探究の目標】		
<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<p>地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめるスキルを身に付けるようにする。</p>	<p>地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p>	<p>地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。</p>

この科目は、「地理総合」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、系統地理的な考察、地誌的な考察によって習得した知識や概念を活用して、現代世界に求められるこれからの日本の国土像を探究する科目として、新たに設置された。

(ア) 内容の構成

<p>A 現代世界の系統地理的考察</p> <p>(1) 自然環境</p> <p>(2) 資源、産業</p> <p>(3) 交通・通信、観光</p> <p>(4) 人口、都市・村落</p> <p>(5) 生活文化、民族・宗教</p>	<p>⋮</p>	<p>B 現代世界の地誌的考察</p> <p>(1) 現代世界の地域区分</p> <p>(2) 現代世界の諸地域</p> <p>C 現代世界におけるこれからの日本の国土像</p> <p>(1) 持続可能な国土像の探究</p>
--	----------	--

- ・内容Aは、「地理総合」の学習成果を踏まえ、現代世界における地理的な諸事象を主な学習対象とし、その空間的な規則性、傾向性や関連する課題の要因を捉えるなどの学習を通して、現代世界の諸事象の地理的認識とともに、系統地理的な考察の手法を身に付けることを主なねらいとしている。
- ・内容Bは、内容Aの学習成果を踏まえ、現代世界を構成する諸地域を主な学習対象とし、選択した地域の地域性と諸課題を捉える学習などを通して、現代世界の地理的認識を深めるとともに、現代世界の諸地域を地誌的に考察する方法を身に付けることを主なねらいとしている。

- ・内容Cは、内容A及び内容Bの学習成果を踏まえ、現代世界における日本の国土を主な学習対象とし、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方を構想する学習などを通して、持続可能な国土像を探究することを主なねらいとしている。

(イ) 内容の取扱い

- ・各大項目を構成する中項目の配列については、それぞれの中項目のねらいや内容、学習の流れを考慮して位置付けを工夫していることから、支障のない限りこの順序に基づいて指導計画を作成し指導すること。
- ・地図の読図や作図、衛星画像や空中写真、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導することとされた。
- ・地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、討論したりするなどの活動を充実させること。

<歴史総合>

【歴史総合の目標】		
<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p>	<p>近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p>	<p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>

この科目は、近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中における日本を広く相互的な視野から捉え、資料を活用しながら歴史の学び方を習得し、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察、構想する科目として、新たに設置された。

(ア) 内容の構成

<p>A 歴史の扉</p> <p>(1) 歴史と私たち</p> <p>(2) 歴史の特質と資料</p> <p>B 近代化と私たち</p> <p>(1) 近代化への問い</p> <p>(2) 結び付く世界と日本の開国</p> <p>(3) 国民国家と明治維新</p> <p>(4) 近代化と現代的な諸課題</p>	<p>C 国際秩序の変化や大衆化と私たち</p> <p>(1) 国際秩序の変化や大衆化への問い</p> <p>(2) 第一次世界大戦と大衆社会</p> <p>(3) 経済危機と第二次世界大戦</p> <p>(4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題</p> <p>D グローバル化と私たち</p> <p>(1) グローバル化への問い</p> <p>(2) 冷戦と世界経済</p> <p>(3) 世界秩序の変容と日本</p> <p>(4) 現代的な諸課題の形成と展望</p>
---	--

- ・内容Aは、この科目の導入として、中学校社会科歴史的分野の大項目A「歴史との対話」を踏まえ、高校の歴史学習への動機付けと以後の学習に必要な歴史学習の基本的な技能や学び方を身に付けることをねらいとしている。
- ・内容Bは、産業社会と国民国家の形成を背景として、人々の生活や社会の在り方が変化したことを扱い、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えて考察し、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解できるようにすることをねらいとしている。
- ・内容Cは、政治、外交、経済、思想や文化などの様々な面で国際的な結び付きが強まり、国家間の関係性が変化したことや個人や集団の社会参加が拡大したことを背景として、人々の生活や社会の在り方が変化したことを扱い、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えて考察し、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解できるようにすることをねらいとしている。
- ・内容Dは、科学技術の革新を背景に人・商品・資本・情報等が国境を越えて一層流動するようになり、人々の生活と社会の在り方が変化したことを扱い、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えて考察し、現代的な諸課題の形成に関わるグローバル化の歴史を理解できるようにするとともに、考察、構想して探究し、現代的な諸課題を理解できるようにすることをねらいとしている。

(イ) 内容の取扱い

- ・内容のA、B、C及びDについては、この順序で取り扱うものとし、A、B及びC並びにDの(1)から(3)までの学習をすることにより、Dの(4)の学習が充実するように年間指導計画を作成し指導すること。
- ・中学校までの学習との連続性に留意して諸事象を取り上げることにより、生徒が興味・関心をもって近現代の歴史を学習できるよう指導を工夫すること。
- ・年表や地図、その他の資料を積極的に活用し、文化遺産、博物館や公文書館、その他の資料館などを調査・見学するなど、具体的に学ぶよう指導を工夫すること。

<日本史探究>

【日本史探究の目標】		
<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<p>我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p>	<p>我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p>	<p>我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>

この科目は、「歴史総合」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、現代の日本の課題を探究する科目として、新たに設置された。

(ア) 内容の構成

<p>A 原始・古代の日本と東アジア</p> <p>(1) 黎明期の日本列島と歴史的環境</p> <p>(2) 歴史資料と原始・古代の展望</p> <p>(3) 古代の国家・社会の展望と画期（歴史の解釈、説明、論述）</p>	<p>C 近世の日本と世界</p> <p>(1) 近世への転換と歴史的環境</p> <p>(2) 歴史資料と近世の展望</p> <p>(3) 近世の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈、説明、論述）</p>
<p>B 中世の日本と世界</p> <p>(1) 中世への転換と歴史的環境</p> <p>(2) 歴史資料と中世の展望</p> <p>(3) 中世の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈、説明、論述）</p>	<p>D 近現代の地域・日本と世界</p> <p>(1) 近代への転換と歴史的環境</p> <p>(2) 歴史資料と近代の展望</p> <p>(3) 近現代の地域・日本と世界の画期と構造</p> <p>(4) 現代の日本の課題の探究</p>

- ・ 内容Aは、人類が日本列島で生活を営み始めた時代から平安時代までを扱い、原始・古代がどのような時代であったかを東アジア世界の動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解できるようにすることをねらいとしている。
- ・ 内容Bは、平安時代末から戦国時代までを扱い、中世がどのような時代であったかを東アジアやユーラシアの動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解できるようにすることをねらいとしている。
- ・ 内容Cは、安土桃山時代から江戸時代までを扱い、近世がどのような時代であったかを世界の動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解することをねらいとしている。
- ・ 内容Dは、近世の幕末期から現代までを扱い、「歴史総合」の学習を踏まえた、世界の情勢の変化とその中における日本の相互の関係や、日本の近現代の歴史を、多面的・多角的に考察し、構造的に整理して理解すること、それらを踏まえて、現代の日本の課題を考察、構想することをねらいとしている。

(イ) 内容の取扱い

- ・ 内容のA、B、C及びDは、この順序で扱い、「歴史総合」で学習した歴史の学び方を活用すること。
- ・ 我が国の歴史を大観して理解し、考察、表現できるようにすることに指導の重点を置き、個別の事象のみの理解にとどまることのないよう留意すること。
- ・ 年表や地図、その他の資料を積極的に活用し、地域の文化遺産、博物館や公文書館、その他の資料館などの施設を調査・見学するなど、具体的に学ぶよう指導を工夫すること。

<世界史探究>

【世界史探究の目標】		
<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<p>世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p>	<p>世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p>	<p>世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>

この科目は、「歴史総合」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、事象の意味や意義、特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、地球世界の課題を探究する科目として、新たに設置された。

(7) 内容の構成

<p>A 世界史へのまなざし</p> <p>(1) 地球環境から見る人類の歴史</p> <p>(2) 日常生活から見る世界の歴史</p> <p>B 諸地域の歴史的特質の形成</p> <p>(1) 諸地域の歴史的特質への問い</p> <p>(2) 古代文明の歴史的特質</p> <p>(3) 諸地域の歴史的特質</p> <p>C 諸地域の交流・再編</p> <p>(1) 諸地域の交流・再編への問い</p> <p>(2) 結びつくユーラシアと諸地域</p> <p>(3) アジア諸地域とヨーロッパの再編</p>	<p>D 諸地域の結合・変容</p> <p>(1) 諸地域の結合・変容への問い</p> <p>(2) 世界市場の形成と諸地域の結合</p> <p>(3) 帝国主義とナショナリズムの高揚</p> <p>(4) 第二次世界大戦と諸地域の変容</p> <p>E 地球世界の課題</p> <p>(1) 国際機構の形成と平和への模索</p> <p>(2) 経済のグローバル化と格差の是正</p> <p>(3) 科学技術の高度化と知識基盤社会</p> <p>(4) 地球世界の課題の探究</p>
--	---

- ・ 内容Aは、この科目の導入として、人類の生存基盤をなす自然界に見られる諸事象や日常生活に見られる諸事象を扱い、地球環境と人類の歴史との関わりや、身の回りの事象と歴史との関わりを考察し、世界史を時間と空間の相で理解することをねらいとしている。
- ・ 内容Bは、歴史的に形成された諸地域の多様性を、諸資料を比較したり、関連付けたりして読み解き、多面的・多角的に考察し表現する活動を通して、諸地域の歴史的特質の形成を理解することをねらいとしている。
- ・ 内容Cは、諸地域の複合的・重層的なつながりを、諸資料を比較したり、関連付けたりして読み解き、多面的・多角的に考察し表現する活動を通して、諸地域の交流・再編を理解することをねらいとしている。
- ・ 内容Dは、地球規模での一体化と相互依存のさらなる強まりを、諸資料を比較し

たり、関連付けたりして読み解き、多面的・多角的に考察し表現する活動を通して、諸地域の結合・変容を理解することをねらいとしている。

- ・内容Eは、「地球世界の課題」を扱い、諸資料を比較したり、関連付けたりして読み解き、探究する活動を通して、歴史的に形成された地球世界の課題を理解することをねらいとしている。

(イ) 内容の取扱い

- ・内容のA、B、C、D及びEについては、この順序で取り扱うものとし、A、B、C及びD並びにEの(1)から(3)までの学習をすることにより、Eの(4)の学習が充実するように年間指導計画を作成し指導すること。
- ・世界の歴史の大きな枠組みと展開を構造的に理解し、考察、表現できるようにすることに指導の重点を置き、個別の事象のみの理解にとどまることのないように留意すること。
- ・年表や地図、その他の資料を積極的に活用し、文化遺産、博物館やその他の資料館などの施設を調査・見学するなど、具体的に学ぶよう指導を工夫すること。
- ・生徒や学校などの実態を踏まえて適切な「主題」とそれに応じた「問い」を立て、それらを中心に構成した学習活動を実施すること。

3 質疑応答

問1 地理歴史科の改訂の基本方針における、基礎的・基本的な「知識及び技能」とは、どのように捉えたらよいか。

基礎的・基本的な「知識及び技能」については、すでに平成20年の中央教育審議会答申において、「系統性に留意しながら、主として、①社会の変化や科学技術の進展等に伴い、社会的な自立等の観点から子どもたちに指導することが必要な知識・技能、②確実な習得を図る上で、学校や学年間等であえて反復（スパイラル）することが効果的な「知識・技能」として示されている。また、そこでは、そのような「知識・技能」等に限って、内容事項として加えることが適当である旨の提言がなされている」とも示されている。

基礎的・基本的な知識及び技能については、単に理解しているか、できるかだけでなく、それらを生きて働かせてどう使うか、どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るかといった、三つの柱で示された資質・能力の育成全体を見通した上で、その確実な習得が求められる。

問2 地理歴史科の柱書の目標に位置付けられている「社会的な見方・考え方を働かせ」とは、どのような意味か。

「社会的な見方・考え方」とは、社会科、地理歴史科、公民科の特質に応じた見方・考え方の総称であり、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法（考

え方)」であると考えられる。そして、「社会的な見方・考え方を働かせる」とは、そうした「視点や方法（考え方）」を用いて課題を追究したり解決したりする学び方を表すとともに、これを用いることにより児童生徒の「社会的な見方・考え方」が鍛えられていくことを併せて表現している。

また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める際に、深い学びの鍵として「社会的な見方・考え方」を働かせることが重要になる。

問3 地理歴史科の目標(2)の「概念などを活用して多面的・多角的に考察」するとは、具体的にどのような学習活動なのか。

「概念などを活用して」については、これまでの学習によって獲得された、様々な地理的事象、歴史的事象の一般的な規則性、傾向性を通して、地理や歴史に関わる事象を捉えることを意味しており、「多面的・多角的に考察」するとは、学習対象として社会的事象自体が様々な側面をもつ「多面性」と、社会的事象を様々な角度から捉える「多角性」とを踏まえて考察することを意味している。

具体的には、地理的事象において、ドーナツ化やスプロール化などの都市の変容の一般的な規則性、傾向性などの概念を獲得し、一連の学習のまとめとして、「都市の持続的な発展には、どのような課題があるのだろうか」といった学習課題に取り組むことが考えられる。なお、歴史的事象における概念としては、一般的な規則性、傾向性に加えて、例えば「帝国主義」、「国民国家」など、ある事象を考察するときの指標となる概念的な知識も含まれる。

問4 教師が「主題」や「問い」を設定する際の留意点は何か。

学習指導の改善・充実等において、各科目において「社会的事象の地理（歴史）的な見方・考え方を働かせ、鍛えるために、「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開が求められている。そこで、教師が「主題」や「問い」を設定する際には、一問一答形式のような知識を問うものではなく、「社会的な見方・考え方」の要素が含まれるように配慮する必要がある。

解説文中には、学習指導要領の趣旨を明確にするために様々な課題（問い）が示されているが、ここに示された課題（問い）はあくまでも参考の事例である。実際の授業においては、教師が生徒の学習状況や興味・関心を見極めつつ、ねらいに則した課題（問い）を設定することが大切である。

4 新学習指導要領を踏まえた現行学習指導要領における実践

生徒が「社会的事象の歴史（地理）的な見方・考え方を働かせることができるよう、単元のまとまりを見通した課題（問い）を設定し、それを中心に構成した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた実践例を示す。

【日本史Aにおける取組例】

<単元の指導計画の例>

単元名	日清・日露戦争—アジアの近代—（6時間）			
単元の目標	日清・日露戦争を通じて日本の帝国主義化がすすみ、国際環境が変化していく過程について、アジアや列強諸国の動向、国民生活と関連付けて把握する。			
	単元の中心となる問い：日清・日露戦争はアジアにどのような変化をもたらしたか。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料の活用の技能	知識・理解
評価規準	日清・日露戦争前後の国際環境の推移や国内社会の変化に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	日清・日露戦争前後の国際環境の推移や国内社会の変化から課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、その過程や結果を適切に表現している。	日清・日露戦争前後の国際環境の推移や国内社会の変化に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択し、情報を読み取ったり、図表にまとめたりしている。	日清・日露戦争前後の国際環境の推移や国内社会の変化についての基本的な事項を理解し、その知識を身に付けている。

	学習内容と問い	《学習を振り返る際の問いの例》
第1次	【学習内容】日清・日露戦争に関する風刺画から、日本やアジア諸国、列強諸国との関係について読み取り、その変化について考察する。 【問い】日清・日露戦争を経て国際環境はどのように変化したか？	帝国主義とは何か。また日本の帝国主義化を支持するか、支持しないか。当時の日本国民になったつもりであなたの意見を述べなさい。
第2次	【学習内容】清や朝鮮国内における政治動向について、年表や諸資料から読み取り、日清戦争・日朝関係の変化について考察する。 【問い】清や朝鮮の改革はなぜ成功しなかったのか？	
第3次	【学習内容】日清戦争の原因・結果と世界に与えた影響について考察し、歴史的意義について評価する。 【問い】日本と清は連帯すべきか？ 対決すべきか？	日清戦争までの学習過程を踏まえ、日本の帝国主義化について支持するか、支持しないか。
第4次	【学習内容】日露開戦のメリット・デメリットについて、当時の国際関係や経済状況、国内世論などから多面的・多角的に考察する。 【問い】日露開戦に賛成か？ 反対か？	開戦論・非戦論双方の立場を踏まえ、日露開戦に賛成か反対か、あなたならどのように考えるか。
第5次	【学習内容】日露戦争の結果がアジア諸国や世界に与えた影響について、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察する。 【問い】日露戦争の結果を国際世論はどうみていたか？	
第6次	【学習内容】日本の勢力拡大に着目し、日清・日露両戦争が国内外にもたらした影響やその歴史的意義について評価する。 【問い】日本の帝国主義化はアジアにどのような変化をもたらしたか？	日清・日露戦争はアジアにどのような変化をもたらしたか。これまでの学習過程を踏まえ、日本の帝国主義化について支持するか、支持しないか。

第3次の授業で使用する教材（資料）の例

- A 今、東洋で文明の中心となっているのは日本であるから、責任をもってアジア東方を保護するべきである。……清や朝鮮は西洋の侵略を防ぐことができない。日本が武力で清や朝鮮を応援することは、日本によって当然のことである。（1881年『時事小言』より）
- B 清や朝鮮が開化するのを待っている余裕はない。むしろ、日本はアジアから抜け出して、西洋諸国と行動をともにするべきである。清や朝鮮が隣の国だからといって、遠慮はせず、西洋人と同じ方法で接するのがよい。（1885年『時事新報』より）
- 問1 上記A・Bは同じ人物が記したものであるが、誰か。〔 〕
- 問2 上記A・Bにおける主張のちがひ（変化）について、理由も含めて説明しなさい。〔 〕
- C 日本からみれば、この戦争（日清戦争）は完全な成功だった。西洋列強は喝采し、日本における彼らの特権を相次いで放棄した。そして、日本を対等の主権国家として承認した。日本は韓国に自由を贈り、韓国国王は中国皇帝、日本国天皇と肩を並べる皇帝の地位を得た。（ヘレン・ミアーズ『アメリカの鏡・日本』より）
- D 1895年1月8日、私は朝鮮の歴史に広く影響を及ぼしかねない、異例の式典を目撃した。朝鮮に独立というプレゼントを贈った日本は、清への従属関係を正式かつ公に破棄せよと朝鮮に迫っていた。（イザベラ・バード『朝鮮紀行』より）
- 問3 上記C、Dの資料から、あなたが考えたことを述べなさい。〔 〕

第5次の授業で使用する教材（資料）の例

「最初のアジアの目覚めは日本のロシアに対する勝利に始まり、この勝利がアジア人の意識の底流に与えた影響は決して消えることはなかった。……日本が西欧勢力に対抗する新勢力として台頭したことは、日本のアジア諸国への距離をますます深めていったのである。それはすべての虐げられた民衆に、新しい夢を与える歴史的な夜明けだったのである。…（中略）…それはわれわれに新しい誇りを与えてくれた。歴史的にみれば、日本の勝利はアジアの目覚めの発端、またはその発端の出発点とも呼べるものであった。」
（パー・モウ『ビルマの夜明け』より）

○教材の工夫

日本の近代化や対外姿勢に対するアジア諸国の受け止め方に触れることで、日露戦争がアジア諸国に与えた影響等について多面的・多角的に考察させる。

○教材の工夫

生徒が、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせられるよう、社会的事象を、時期や推移に着目しながら、背景、原因、影響、関係性に関する視点を関連付けて考察する設問を設定する。

【地理Bにおける取組例】

<単元の指導計画の例>

単 元 名	生活文化、民族・宗教（4時間）			
単元の目標	世界の生活文化、民族・宗教に関する諸事象を取り上げ、それらの分布や民族と国家の関係などについて考察するとともに、現代世界の民族、領土問題を大観する。 単元の中心となる問い：民族・領土問題の要因に傾向性はあるのだろうか。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料の活用技能	知識・理解
評価規準	世界の生活文化、民族・宗教に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	世界の生活文化、民族・宗教について、分布や民族と国家の関係などを系統地理的に考察し、民族、領土問題を大観させ、その過程や結果を適切に表現している。	世界の生活文化、民族・宗教に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	世界の生活文化、民族・宗教について、分布や民族と国家の関係などとともに民族、領土問題や、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身に付けている。

	学習内容と問い			
第1次	【学習内容】「生活文化の地域的差異」 人々の生活の地域差はどのように生まれたのかを、生活に密着した衣食住の特徴から考察する。 【問い】なぜ衣食住は地域によって異なるのだろうか？			
第2次	【学習内容】「世界の民族と宗教」 世界の主な民族・宗教の分布及びその背景について考察、多くの民族から構成されている国家の政治と宗教との関係を考察する。 【問い】人々は何によって連帯するのだろうか？			
第3次	【学習内容】「世界の民族・領土問題」 現代世界にみられる民族や領土をめぐる問題は、どのような地域に生起している傾向があるのか、各地に生起する現象にどのような要因が共通しているのかを概観する。 【問い】紛争が発生しやすい地域にはどのような傾向性があるだろうか？			
第4次	【学習内容】「民族・領土問題と国際連合」 国際連合の役割を理解するとともに、加盟国数の変化から民族問題の歴史的背景や経過を考察する。 【問い】国際連合の加盟国数の変化に影響を与えているものは何か？			

<第4次の指導案の例>

1 本時の目標
国際連合の加盟国数を示した資料から、民族問題の歴史的背景や経過を考察する。

2 本時の展開

過程	学習内容	生徒の学習活動
導入 (15分)	○前時の学習内容の復習 ○本時の学習内容の確認 ○国際連合	○前時の学習内容の振り返りを行う。 ○本時の学習内容を確認し、学習活動の見通しを持つ。 ○教師の説明を聞き、国際連合の役割等を理解する。
展開 (20分)	○グループ学習	○グループ（1グループ3、4名）に分かれる。 ○ワークシートに自分の考えを記入する。 ○グループ内で各自が記入した内容をもとに意見交流する。 ○他者の意見を参考に、自分の考えを再構築する。
まとめ (15分)	○まとめ	○国際連合の加盟国数の変化について、民族問題と関連付けて考察する。 ○振り返りシートに記入する。

○振り返りシート
単元ごとに、単元の中心となる問いに対するまとめを記入するとともに、学習内容について、理解できたこと、疑問に思ったこと、理解できなかったこと等を記入する。

提出日	単元名	まとめ	感想

<ワークシートの例>

国連の加盟国数について

次のグラフは、年代別の国連加盟国数を地域ごとに表したグラフです。

年	アジア	アフリカ (X)	ヨーロッパ (Y)	オセアニア/南北アメリカ
1945年	9	14	22	0
1960年	23	26	26	22
1970年	29	42	27	26
1980年	36	51	29	32
2014年	47	54	43	35

<問題>
グラフ中の「X」はアフリカ、「Y」はヨーロッパになる理由をそれぞれ考えてみよう。

【自分の考え】

- ・アフリカは、1945年の第二次世界大戦の終了後に増えているから。
- ・ヨーロッパは、アフリカに比べて第二次世界大戦後に増えていないから。

【最終的な考え】

- ・アフリカは、1960年のアフリカの年以後に独立国が増え、急激に加盟国が増えたから。
- ・ヨーロッパは、1980年と2014年の間にソ連やユーゴスラビアが解体して独立国が増え、加盟国が増えたから。

○教材の工夫
教科書に掲載されている資料やグラフの読み取りを教師が説明するだけでなく、教科書や資料集に掲載されている資料を活用してグループ学習を展開できるように構成している。